



## 発行にあたって ～Life In DATAをテーマに～

### Introduction

デジタルハリウッド大学 学長

杉山 知之

President Tomoyuki Sugiyama

1987年よりMITメディア・ラボ客員研究員として3年間活動。90年国際メディア研究財団・主任研究員、93年日本大学短期大学部専任講師を経て、94年10月デジタルハリウッド設立。2004年日本初の株式会社立「デジタルハリウッド大学院大学」を開学。翌年、「デジタルハリウッド大学」を開学し、現在、同大学・大学院・スクールの学長を務める。2011年9月、上海音楽学院（中国）との合作学部「デジタルメディア芸術学院」を設立、同学院の学院長に就任。福岡県Ruby・コンテンツビジネス振興会議会長、内閣官房知的財産戦略本部コンテンツ強化専門調査会委員を務め、また「新日本様式」協議会、CG-ARTS協会、デジタルコンテンツ協会など多くの委員を歴任。99年度デジタルメディア協会AMDアワード・功労賞受賞。  
<http://www.facebook.com/tomoyuki.sugiyama>

昨年創刊された『DHU JOURNAL - デジタルハリウッド大学 紀要』の2号目がついに発刊となりました。今年のテーマは2014年に開催された「近未来教育フォーラム2014 Life In DATA」です。

生活の隅々にデジタルテクノロジーが浸透し、世界中といつでもつながることができるようになった現代。劇的なスピードで変化する21世紀に求められるのは、グローバル感覚を備え、デジタルコミュニケーションを駆使できる人材です。

本学の教育はデジタルコミュニケーションを理解しコンピュータを利用して、「何か」を創造することに重きを置いています。自分の創る「何か」が世の中にどのような影響を与えるのかを考え、より使いやすく、美しく、楽しいものを生み出し、人々の未来生活に役立てながら、さらに新しい価値を与えることを目指しているのです。

今回のテーマである「Life In DATA」、つまり、データがあふれる世界で、新しい価値を生み出すために必要とされている人材。そのひとつが膨大なデータを分析し、社会に還元する「データサイエンティスト」といえるでしょう。詳細は本誌P.5に掲載の対談記事にもありますが、特に必要とされているのがデータ分析力に加え、現場で活用するための提案を行う人材です。しかし、この相反する力を併せ持つ人材はまだまだ少ないのが現状です。

そしてこの力を養うには分析力だけではなく、発想の転換や「遊び心」が必要です。例えば、分析したデータをわかりやすく楽しく見せる、数字を新しいユニークな視点で考える。こうした新たな試みは、ただデータを分析しているだけでは生まれません。そこに必要なのは「遊び心」だと考えています。こうした遊びが新たな視点を生み出すのです。

このたび完成した本学の紀要も、本学教員、研究者、大学院生が行った遊び心のある幅広い研究開発活動が集められています。本誌を媒体として、広く読者のみなさまのご意見を頂戴し、研究開発活動に役立てていく所存であります。